

無所属 西東京市議会議員

森てるおの なんでもリポート 第30号



2006年1月発行（隔月発行） 定期購読料：年間1,000円（送料含む）
編集：森てるお事務所 発行：森てるおと市民の目

あけましておめでとうございます

新しい年のはじめにあたって、今年が平和で清々しい年になるよう、いっそう努力していきたいとの思いを新たにしています。

昨年は総選挙での小泉自民党の圧勝で、政治の軸が露骨に軍事化の方向に揺れ動きました。小泉本人を含め、小泉後継と目される靖国参拝派の重要閣僚への登用、対アジア軽視・蔑視の政治が主流を占めることになったように思えます。小泉自民党の拡大に手を貸した公明党は、郵政民営化の踏み絵を踏み、今また防衛庁の省への昇格、武器輸出3原則の撤廃、憲法改正などで皿ごと毒を飲み込もうとしています。

また、民主党は対案路線なるものの帰結として、小泉自民党的政治の一翼に加担していきます。前原体制は自民党の補完物になる道をひた走っています。民主党と公明党ともに小泉政権のパートナー争いを繰り広げ、軸足を小泉政治たるものに置くことで自らの安泰を図ろうとしている姿はなんとも浅ましく、見苦しい限りです。これらは誰を、どのような層を代表する党なのでしょうか。

一部の世論調査では、小泉自民党の支持率が高まる一方で、最も政治に期待する事柄として社会保障があげられています。ブラックジョークか笑い話にしか思えません。

小泉政権とその後継政権にとっての最大課題は、799兆円にも及ぶ膨大な借金を、いかにして国民大衆から引き剥がしたお金で埋めていくのかということに尽きます。国民から薄く広くかき集めた資金を集約し、「勝ち組」の企業活動に投入してそのおこぼれをもらいつつ借金減らしをしていくことが仕事です。小泉的政治が、企業活動に回すべき資金を社会保障費に広く薄く振り向けるわけがありません。

政策の結果拡大する貧富の格差と生活困難者増大については、アメリカンドリームならぬジャパンドリーム（見果てぬ夢＝成り上がり幻想）をみせて、「負け組み」になるかどうかは自己責任と思込ませ、反抗、反乱の意気をくじき、その多くを「下流社会」に封じ込めようとしているように見えます。ナショナルミニマムの保障を放棄したと考えるしかありません。生存は自己責任というわけです。

市長交代で登場した新市長はこんな時代背景の中で、地方自治体の長として市民生活の維持、保障を図らなければならないにもかかわらず、いまだ開発優先の夢を持ち続けているように見受けられます。ハードよりソフトと主張してきた議会内勢力がこぞって「与党」に連なった今、是々非々で行政監視をすることがいっそう必要になっています。市民自身が行政をコントロールする力をつける、自治の力をつけることに、何がしかの貢献ができればと考えています。ひとり一人の市民の力があってこそ、生活の維持、平和の維持が可能になります。

インターン生の目

昨年12月から議員活動を体験するインターン生として、早稲田大学4年の肥田真理子さんを迎えています。日頃関心を持っていることについて寄稿してもらいましたので紹介します。

2005年の合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む子供の数）が1・26前後に落ち込み、過去最低となることが分かりました。少子化は年々進む一方です。この進行を食い止めるためには、「保育所などの施設の充実」が何よりも重要だと思います。

少子化の傾向は、日本だけではありません。欧米や、お隣の韓国でも深刻な問題となっています。特に韓国では、合計特殊出生率が1・16まで急激に低下しました。この原因については、教育費、特に塾代を含めた家計負担の大きさをあげられる場合が多いということでした。確かに、学校教育費の私的負担では韓国は世界一の高さです。やはり、子育てにかかるお金の負担と、出生率の低下は大きく関係しているようです。

この問題について友人達と話し合ったことがあります。この時、「少子化」の理由として、何よりも最初に出てきたのが、お金の問題でした。

しかし、お金の問題がいくら解決しても、少子化は止まらないと思います。そもそも、一人の子供に、そこまで多くの教育費をかける必要があるのか疑問を抱きます。最低限の養育費はもちろん必要ですが、最近では一人の子供を、親が非常に大切に扱い、多くのお金をかけているケースが多いように思います。

子供は、親一人の所有物ではありません。むしろ、地域社会全体の大切な宝と考えるべきです。子供が親から離れて、自由にしかも、安全に遊べる環境が何よりも必要なのではないのでしょうか。親から教えられなくても、子供社会の中で自然に学んでいくことがたくさんあります。それは、莫大なお金を払っていく塾よりも大切なことを教わる場です。

以前の日本は、地域のおじさん、おばさんが互いに子供たちを見守る役割を果たしていました。残念ながら、今ではそういった環境を作るのは難しくなっています。

ならば、託児所など、子供を見守る施設をもっと充実させることが、何よりも先決ではないのでしょうか。そうすれば、子供は子供社会の中で自由に成長できるし、親も安心して子供を生み、育てることができると思います。



我が家のお雑煮

お正月、我が家では2種類のお雑煮を作ります。「食事当番は日替わりで、自分が食べたいものを作る」というのが結婚当初のふたりのルールでした。

お雑煮もその例にならって、今でも、元日は連れ合いの、二日は私の作ったお雑煮が食卓に並ぶことになります。こどもにどちらが好みか聞いてみたこともあったのですが、食べられればいいと思っているのか、家庭不和を招きたくないとの配慮からか、答えを聞けたためしがありません。家庭の味が二つあるのは結構なことだと思っています。

◎森てるおの活動記録（2005年11～12月）

※主なものを掲載しています。

11月1日	駅頭宣伝（～10日）	12月2日	12月議会本会議
7日	決算特別委員会（～10日）	5日	一般質問（～8日）
12日	開かれた議会をめざす会公開学習会	9日	企画総務委員会・厚生委員会
15日	住基ネット取消訴訟	12日	建設環境委員会・文教委員会
16日	拡声器ポスティング（～24日）	13日	議会運営委員会
17日	シンポジウム「少子化時代の自治体運営」	14日	駅周辺再開発等特別委員会
20日	道路騒音測定	19日	本会議
25日	議会運営委員会	22日	建設環境委員会
26日	森てるおと市民の広場（～27日）	23日	森てるおと市民の目年末交流会
30日	議会運営委員会	25日	平和・憲法キャンドル集会